

検証意見書

2025 年 10 月 27 日
意見書番号：SGS/123

フクシマガリレイ株式会社
大阪府大阪市西淀川区竹島 2-6-18
代表取締役社長
福島 豪 様

SGS

検証目的

SGSジャパン株式会社（以下、当社）は、フクシマガリレイ株式会社（以下、組織）からの依頼に基づき、組織が作成した検証対象（以下、GHG等に関するステートメント）について、検証基準（ISO14064-3:2019及び当社の検証手順）に基づいて検証を実施した。本検証業務の目的は、組織の対象範囲にかかるGHG等に関するステートメントについて、判断基準に照らし適正に算定・報告されているかを独立の立場から確認し、第三者としての意見を表明することである。GHG等に関するステートメントの作成及び公正な報告の責任は組織にある。

検証範囲

検証対象は、Scope1 及び Scope2、Scope3 である。
対象期間は 2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日である。
詳細な検証対象範囲は別紙参照。

検証手順

本検証業務は、検証基準に則り、限定的保証水準にて次の手続きを実施した。

- 算定体制の検証：検証対象の測定・集計・算定・報告方法に関する質問、及び関連資料の閲覧
- 定量的データの検証：ガリレイパネルクリエイト株式会社彦根工場及び本社の現地検証及び証憑突合、本社でのその他検証対象範囲に対する分析の手法及び質問

判断基準は、温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル（Ver. 6.0）、サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量算定に関する基本ガイドライン Ver. 2.7、同算定のための排出量原単位データベース（Ver.3.5）及び組織が定めた手順書を用いた。

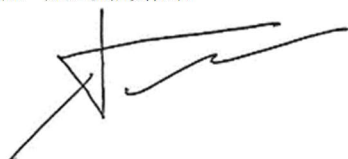
結論

前述の要領に基づいて実施した検証手続の範囲において、組織のGHG等に関するステートメントが、判断基準に従って、算定及び報告されていないと認められる重要な事項は発見されなかった。
なお、当社は、組織から独立しており、公平性を損なう可能性や利害の抵触はない。

SGSジャパン株式会社

神奈川県横浜市保土ヶ谷区神戸町 1 3 4
横浜ビジネスパーク ノーススクエア I
ビジネス アシユアランス
認証・認定統括責任者

竹内 裕二



別紙

2025 年 10 月 27 日
意見書番号：SGS25/123

検証対象範囲の詳細

検証対象	検証範囲	GHG等に関するステートメント
1 Scope1, 2 (エネルギー起源CO ₂) ※社員寮は除く	組織及びグループ5社 (ガリレイパネルクリエイト株式会社、タカハシガリレイ株式会社、ショウケンガリレイ株式会社、ガリレイ(タイランド)株式会社、日本洗浄機株式会社)	Scope1 : 6,380 t-CO ₂ Scope2 : 2,664 t-CO ₂
2 Scope1 (HFC)	岡山工場、滋賀 (水口工場) 及びガリレイ(タイランド)株式会社 ※工場における製品封入時の漏洩に限る	Scope1 : 76 t-CO ₂
3 Scope 3 (カテゴリー1)	組織及びグループ 2 社 (ガリレイパネルクリエイト株式会社、タカハシガリレイ株式会社) ※製造及び設置工事に関わる仕入れ金額のみに限定	475,011 t-CO ₂
4 Scope 3 (カテゴリー4)	組織及びグループ2社 (ガリレイパネルクリエイト株式会社、タカハシガリレイ株式会社) ※製品の国内輸送に限定 (梱包は除く)	2,214 t-CO ₂
5 Scope 3 (カテゴリー9)	組織及びグループ2社 (ガリレイパネルクリエイト株式会社、タカハシガリレイ株式会社) ※製品の国内輸送に限定 (梱包は除く)	132 t-CO ₂
6 Scope 3 (カテゴリー11)	組織及びグループ1社 (タカハシガリレイ)	2,637,661 t-CO ₂
7 Scope 3 (カテゴリー12)	組織及びグループ2社 (ガリレイパネルクリエイト株式会社、タカハシガリレイ株式会社) ※製品廃棄時に含まれる冷媒の漏洩は除く	2,099 t-CO ₂ ※組織の製品に由来する廃棄物は、原単位を全て金属くずとして算定
8 再生可能エネルギー量 ※太陽光発電自家消費量	岡山工場及び滋賀 (水口) 工場	1,909,167 kWh